



神戸市立科学技術高校 野球部

【活動日】

月、火、水、木、金、土、日（週1日休み）

【活動場所、時間】

グラウンド

平日 15:40～

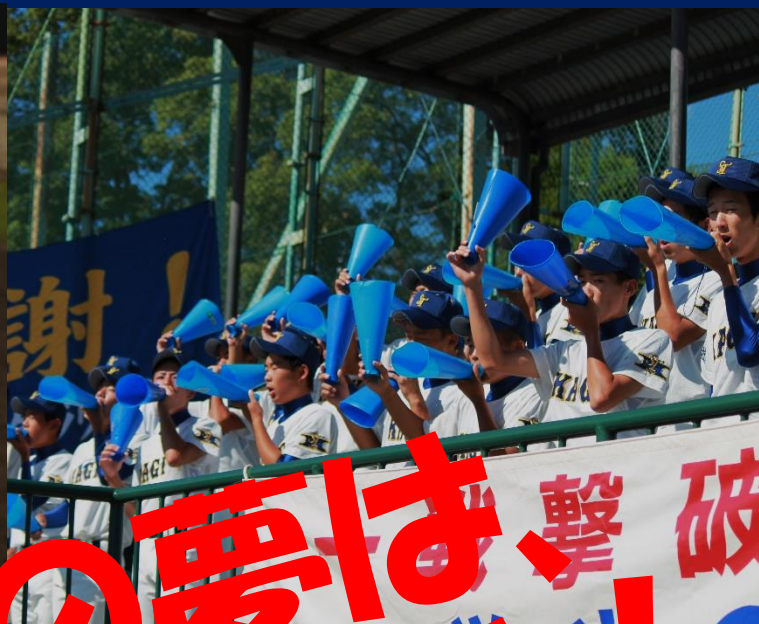
休日 未定（毎週週末に時間指定しています。）

※集合場所はバックネット裏に集合してください。

【募集内容】

野球を一生懸命、楽しく取り組める人

男子マネジャー、女子マネジャーも募集しています。



俺たちの夢は、
終わらない！



【顧問】

部長：中田 大嗣（地歴公民科 M2C担任）
監督：井上 和男（地歴公民科 庶務部長）

副部長：中本 学（電気情報工学科 E科指導部）
副部長：中田 雄介（都市工学科 U1A担任）

科学技術高等学校野球部 入部希望者のみなさんへ

一人ひとりの生徒に必要な課題を与え、生徒自身が課題を克服することに、あせらず寄り添いながら、次のステップへ導いていきます。そして、自分自身で考え行動できるような生徒を育成し、伝えることが出来るすべてのものを、野球の奥深さを、素晴らしさを、生徒に伝えます。高校生活、野球を通じていっしょに成長しませんか？是非、グラウンドまで見学に一度来てください！

顧問メンバー

監督：井上和男 部長：中田大嗣 副部長：中本学、中田雄介、外部指導員：三原康司コーチ

「科学技術高校野球部も、かくりたい」（井上和男）

科学技術高校野球部は、“野球の神様”に愛されて、“みんなに愛されるチーム”にならないといけません。私は運よく高校時代に、甲子園に出場することができました。今から考えるとまさに“野球の神様”のおかげだったと思います。1年生の秋の府大会で準決勝まで勝ち進み、PL学園高校と対戦しました。PL学園は、前のチームで選抜に優勝し、日本一になっていました。その試合は延長戦までもつれ込み、1対2で敗れました。その後、3位決定戦に勝利して、近畿大会出場を決めました。その近畿大会2回戦で再びPL学園と戦いました。府大会で接戦をしていたため、また接戦となると思っていました。ところが、0対7のコールドゲームでの敗退となりました。その試合に勝てば、選抜出場が決まる一戦で大敗を喫したのです。現実には甘くありませんでした。“野球の神様”が試練を与えました。その後の冬の練習は、目標を甲子園に設定して相当頑張った記憶があります。近畿大会の惨めなコールド負けがどんな練習にもみんな頑張っていける原動力となったのです。さらに、PL学園はその年の選抜大会も全国制覇しました。春の選抜を2連覇したのです。まさに、現在の大阪桐蔭高校です。このPL学園の全国制覇は我々にとっても大きな自信を与えてくれました。

選抜後に行われた春の府大会は、決勝戦でPL学園と対戦しました。この試合も0対3で敗れてしまいました。しかし、安打数では我々春日丘高校が上回っていました。秋は3位、春は2位、夏は優勝しかありません。公式戦で敗れた相手はPL学園だけとなりました。夏の選手権予選では、準々決勝でPL学園と対戦となりました。5回戦に勝利した直後、球場でキャッチボールをしていると、準々決勝の抽選結果が放送で流れました。対戦相手がPL学園と聞いた直後、相手のキャッチボールのボールの勢いが強くなったのを覚えています。気合いが入っていたのです。そのPL学園とのゲームは、春日丘がホームランを放つなど、7回まで4対5と競った試合となりました。そして、8回に私がソロホームランを放ち、5対5の同点に追いつきました。今までの公式戦で誰もホームランを打ったことがなかったのに、全国制覇のチーム相手に2本のホームランが飛び出したのです。9回の勝ち越し点はホームスチールでした。PL学園戦のために練習をしてきたトリック走塁でした。土壇場でこの走塁が決まり、6対5でPL学園を破ったのです。6得点のうち、5点がホームランとホームスチールです。まさに“野球の神様”が力を貸してくれたとしか思えません。続く準決勝の太成高校(現太成学院高校)は、0対1の劣勢を9回に相手エラーで追いつき、延長戦の末、2対1で勝ちました。エースピッチャーが4連投となる決勝戦は、何と台風の通過で順延となり、休養ができました。決勝戦の近大付属高校戦は、9対1の圧勝でした。この試合でも初ホームランを放った打者もありました。この試合では内野スタンドは満員となり、一部の3塁側スタンドを除いては春日丘へ声援を送っていました。まさに、“みんなに愛されるチーム”になったのです。

甲子園の初戦では、長野県代表の丸子実業高校(現丸子修学館高校)との対戦となりました。0対2で迎えた6回、9番から4連打を放ち、同点に追いつき、4番の犠飛で勝ち越しました。4万8000人の観衆のほとんどが我々に声援を送ってくれました。2回戦、敗れはしたものの、神奈川県代表の法政大学第二高校戦では大会で最も多い5万8000人を集めました。“野球の神様”の力のおかげで勝ち進み、みんなに応援をしてもらう素晴らしい体験をしました。

我々科学技術高校野球部も“野球の神様”に応援してもらい、“みんなに愛されるチーム”にならないといけません。勝つチームを目指すのではなく、甲子園球場から招待される資格がもらえるチームにならないといけません。